

# ケベック学会誌創刊に寄せて

スザンヌ・エティエ

ケベック州政府在日事務所代表

ケベック州政府は、日本との交流を既に37年間にわたり大切にしていまいりました。その国際政策においても、アジアは、優先地域として活動を進めております。私達を隔てる地理的な距離にも関わらず、長い歳月をかけて育んできた交流は互いの絆を深め、認め合い、協力しあう関係として、さまざまな分野において実を結んでいます。

ケベック社会とその北米における文化的な特徴に、多くの人々が興味、関心、称賛を抱いています。フランス語圏諸国をはじめ世界において、ケベックにおけるフランス語の維持、集団としてのアイデンティティ、文化的多様性は、学問や研究の対象とされています。ケベックの文学は、ケベックに関心を寄せる学識者が、まず注目する分野であることが多く、日本もまた例外ではないでしょう。

ケベックの文学を研究され、より多くの人々に広めてくださった日本の大学の教授陣による絶え間ない努力により、ケベックとフランコフォニーを取り上げた専門誌の発行を、今日こうして祝うことができます。

ケベック州政府は、日本ケベック学会誌の創刊を大きな喜びと共に支援します。また、研究発展のため、ケベック文化の経験を伝播するための有意義なツールの誕生にご尽力いただいた諸先生方の情熱を拝見し、大変光栄なことに私自身、受け止めております。

日本ケベック学会誌創刊を心からお喜び申し上げるとともに、今後のご隆盛をお祈りしております。